

短大生の科学リテラシー

—科学と疑似科学—

織 田 潤 二

I. はじめに

古からの研究を礎に、科学はその理論や応用技術を含め、近代に大きく発展した。そこには核兵器開発や環境汚染などの影の部分もあるが、多くの理論構築や技術発展により、私たちの生活は驚くほど豊かかつ便利になった。そして、開発された精緻な機器による膨大なデータ解析が行われるとともに、第三者による多方面からの検証がなされることにより、科学は信頼されるものとなった。

しかし近年、科学を装った疑似科学（似非科学・ニセ科学・未科学）と思われる事象や商品が数多く見られる。「～の効果が期待できる」「～が報告されている」だけならまだしも、場合によっては多額の金銭が関与し、友人関係や家族関係が破綻にいたることも散見される。科学は論理性や再現性を根拠に成り立つものであるが、信頼こそすれ、信仰するものではない。

私たちは今、小型のパソコンであり瞬時に世界の情報にアクセスできるスマートフォンが必携の状況にある。そこでは、多様化したメディアから一方的に種々の情報が送られてきており、大学生、特に文科系学生の多い本学では、科学リテラシーの醸成が重要であると考えた。

そこで、本調査では、担当している「教養講座」において学生たちの科学や疑似科学に対する考え方を把握するとともに、その違いや現在確かだと考え

られている事柄などについて、1コマ（90分）の講義及び事前事後アンケートを実施し、考えや思いの変容を確認しようとするものである。

II. 研究の方法

1. 講義前アンケート調査の実施（2019年・2020年）【対象人数；2019年：103人・2020年：81人】

学生の現在の考えを把握するため、アンケート調査を実施した。アンケート項目は、過去の大学生データが存在するものや、以前に筆者が行った疑似科学に関する講義のなかで質問の多かったものから選定した。文章表現に関しては、言い回しの違いが統計結果へ影響すると考えられるため、過去データの記載されている文献や疑似科学に関する書籍^{1)～7)}の言葉と近く、かつ簡潔なものとした。調査方法は、2019年は紙媒体に学生が記入、2020年はGoogleフォームを用い学生は各自のスマートフォンからの回答送信とした。

【有効回答数；2019年：94・2020年：76】

2. 講義後の感想の集約（2019年・2020年）

A4用紙1枚を用い、講義内容の要点及び受講後の感想を記述式で集約した。

3. 再アンケート調査の実施（2020年）

Googleフォームおよび学生のスマートフォンを用いて、講義前と同一のアンケート内容で行った。有効回答数は、受講学生数の減少、及び投票時間短縮のため、76から55へ減少した。

令和2年11月30日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地

香川短期大学 子ども学科 I

TEL 0877(49)5500 FAX 0877(49)5252

Email odaj@kjc.ac.jp

4. アンケート内容

(1) 項目1〔記述式〕(2019年・2020年)

『 』は、本当にいますか、存在しますか?の『 』に、今あなたが思っているものを3つまで書いてください。そのうちの1つは、おそらく他の人は考えていないだろうと思うものを書いてください。

(2) 項目2〔選択式〕(2019年・2020年)

以下の15項目について、①そう思う②ややそう思う③どちらともいえない④ややそう思わない⑤そう思わない、の5件法で実施した。

- 1 霊は存在する
- 2 幽霊は存在する
- 3 体は死んでも魂は生き続ける
- 4 生まれ変わり(輪廻転生)はある
- 5 虫の知らせで身内の不幸を知った人がいる
- 6 超能力は存在する
- 7 テレパシーは存在する
- 8 未解明のエネルギーを使える人がいる
- 9 「気」は存在する
- 10 火事場の馬鹿力は存在する
- 11 UFOは存在する
- 12 地球外生命体は存在する
- 13 ブラックホールは存在する
- 14 UMA(未確認生物:サイズはヒト以上)は存在する
- 15 「血液型による性格診断」は当たっている

ここでは、1の霊と2の幽霊について、霊は精神・魂的なもの、幽霊は超常現象的なものとして区別し別項目とした。

(3) 項目3〔選択式〕(2019年・2020年)

「霊の存在」について三択で実施し、過去他大学の結果(安齋 1996)と比較を行う。また、項目2の一部の結果について、過去他大学の結果(中島ら 1993)と比較を行った。

Ⅲ. 研究結果及び考察

1. 項目1〔記述式〕(2019年・2020年)

「『 』は、本当にいますか、存在しますか。」について、記述の多かった順に表1に記す。

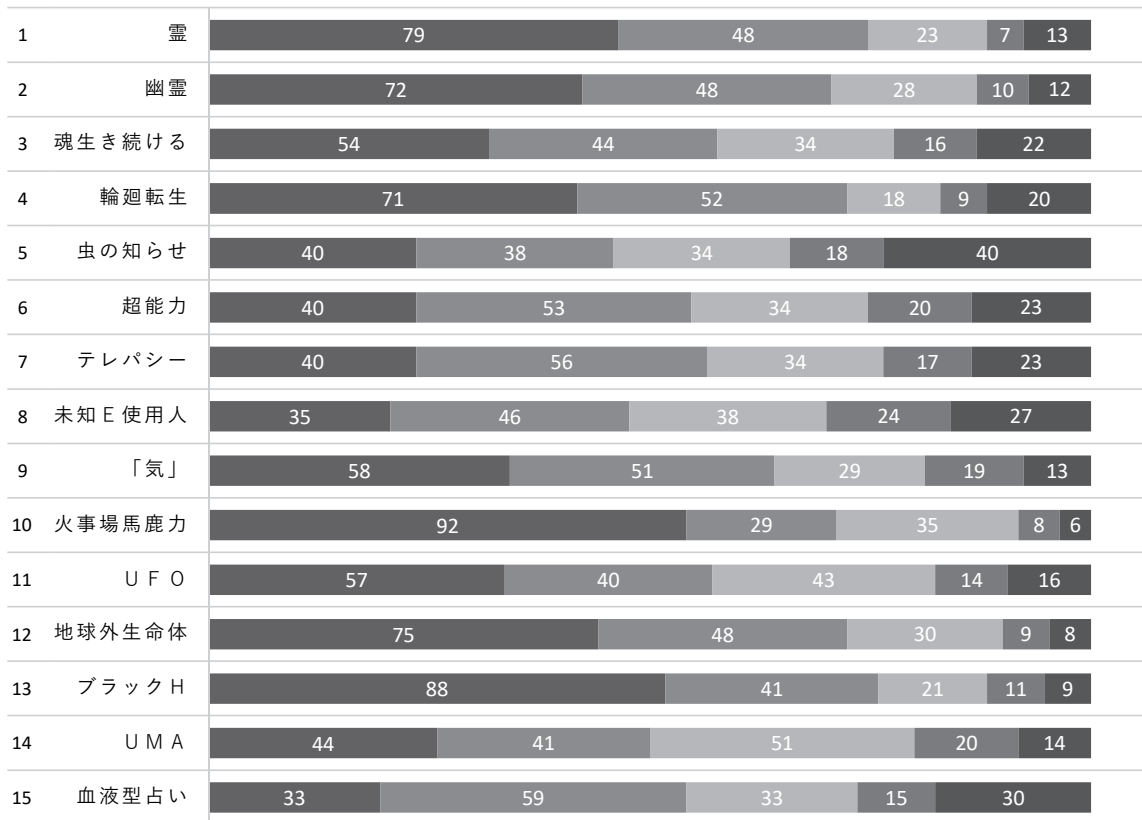
表1 『 』は、本当にいますか

66 宇宙人	50 幽霊
41 神・神様・仏様	24 お化け
23 UFO	
19 天国・地獄・あの世・死後の世界	
15 ツチノコ	12 超能力(者)
11 運命の人(相手)	
8 霊・精霊・心霊・守護霊	
7 UMA	7 ドッベルゲンガー
7 パラレルワールド	6 四(異・高)次元
6 悪魔	6 ネッシー
6 妖怪	5 カップ
5 ブラックホール	4 地底人
3 妖精	3 輪廻転生
3 小人	3 人魚
3 ドラえもん	2 宇宙の外・果て
2 鬼	2 火星
2 人面魚	2 タイムトラベル
2 ビッグフット	2 運命
2 自分	2 未来人
1 不老不死	1 心
1 物に心	1 目に見えてるもの
1 粒子	1 夢の世界

左の数字は回答数(一人あたりの回答数:3・有効回答人数170名)で、回答数1については特徴的なもののみを記した。回答のなかで「自分」や「心」は哲学的なものであるが、「粒子」は量子力学や宇宙の起源に通じ、また「目に見えているもの」はヒトの感覚の曖昧さや不確かさといった、まさに疑似科学を論ずるうえで必須の考え方であった。

2. 項目2〔選択式〕(2019年・2020年)

次ページのグラフ1に結果を示す。それより、「霊」と「幽霊」の差はあまりなく、「UFO」と「地球外生命体」の存在についてはやや差がみられる。また、「霊」「輪廻転生」「火事場の馬鹿力」「ブラックホール」の存在に同意している学生が多い。ただ、いずれの項目も筆者の当初予想より存在肯定の割合が大きい。



■ そう思う ■ やや〃 ■ どちらともいえない ■ やや〃 ■ そう思わない

グラフ1 『 』の存在について（グラフ内数値は人数：各170名）

3. 項目3〔選択式〕（2019年・2020年）

〔過去の他大学生との比較〕

・首都圏の学生：194名◆

1992/7 日本学術振興会研究員 中島定彦氏ら調査¹⁾

・立命館大学生：158名■

1996/4 立命館大学教授 安齋育郎氏調査³⁾

・香川短期大学生：94名●（2019/10）

76名★（2020/10）

（1）項目2の15個の設問のうち、中島らの調査項目と同一、またはほぼ同一の項目について比較：【表2】

（2）「霊の存在」について、安齋の調査と比較：【表3】

表2・表3中の「差」は香川短期大学生を基準としたものである。表2では、本学学生は「虫の知らせ」や「テレパシー」の存在肯定の割合が少なく、

「輪廻転生」の割合は多いが、表3では、「霊は実体を持った存在である」や「霊は存在する」の割合が多い。学生たちは、霊や魂といわれるものの伝播とその存在をやや区別してイメージしているようである。

IV. 科学リテラシー向上のための講義と考察（1）

「血液型占い（性格診断）」に関して（2019年・2020年）

占星術や風水などの「占い」に関するものは巷間にあふれている。朝には多くのテレビ局が、「蠍座のあなた、今日のラッキーカラーは青色」などと放送しており、また日頃、「私は血液型がB型だから」と会話に挟む人は、本学学生を含め老若男女を問わず、少なからずいる。

表2 その存在について ①そう思う+②ややそう思う の合計ポイント (%)

項 目	◆	差	●★	●	★
1 霊は存在する	58	△ 17	75	72	78
3 体は死んでも魂は生き続ける	61	▼ 1	60	51	68
4 生まれ変わり（輪廻転生）はある	63	△ 10	73	66	80
5 虫の知らせで身内の不幸を知った人がある	67	▼23	46	39	53
7 テレパシーは存在する	87	▼29	58	46	71
8 未解明のエネルギーを使える人がある	63	▼14	49	40	58
11 U F Oは存在する	48	△ 9	57	51	64
12 地球外に生命が存在する	76	△ 1	77	75	78
15 「血液型による性格診断」は当たっている	39	△ 15	54	57	52
平 均	62.4	▼1.4	61.0	55.2	66.9

(◆:1992年首都圏大学生 ●:香短大生2019年 ★:香短大生2020年)

◆のデータ出典:「超自然現象信奉尺度の作成」中島定彦ら (1993) Journal of JAPAN SKEPTICS Vol.2

表3 霊の存在について (%)

「霊の存在」について	■	差	●★	●	★
霊はいかなる意味においても存在しない	10	▼ 1	9	7	11
霊は人間の観念としての存在である	80	▼ 18	62	67	57
霊は実体をもった存在である	10	△19	29	26	32

(■:1996年立命館大生 ●:香短大生2019年 ★:香短大生2020年)

■のデータ出典:「霊はあるか—科学の視点から—」安齋育郎 (2002) 講談社ブルーバックス

この誰しも経験したことのある「血液型占い」を題材として用い、本学学生を対象に2019年 (87名) と2020年 (62名) に、体験を伴う講義を行った。内容は、約30年前から一部で行われている「ラベル張り替え実験」である。その方法は、「A・O・AB・B型それぞれの特性^{8) 10)}」を各17、計68個記した用紙を配付し、68すべての記述に自分が該当するかどうか○を付け、○印の最も多い血液型「占いによる血液型」と、自身の実際の血液型を比べるものであるが、実はラベルが張り替えられている (A型⇔O型・AB型⇔B型) というものである【資料1】。なお、日本での血液型占い自体は1930年代に始まったが、近年の血液型性格診断は、1971年に能見正比古氏が提唱したもの⁸⁾を元に文言が変化しながら様々な形に派生していったものと考えられている^{9) 10) 11) 12)}。

「ラベル張り替え実験」結果を表4に示す。

学生たちには、ラベル張り替えの事実を伝えた後、以下の心理学用語についての解説を行った。

【表4】血液型占いラベル張替え実験結果
(数字は人数)

占い 実際	A	O	AB	B
A	27	26	7	6
O	10	27	4	2
AB	1	0	8	2
B	1	4	7	17

占い 実際	A	O	AB	B
A	①	②		
O	②	①		
AB			①	②
B			②	①

①ラベリング効果：表示「ラベル」の通りだと思
いこむ。

②フリーサイズ（バーナム）効果：誰にでも当て
はまることを、自分だけだと思こむ。

③インプリンティング効果：いったん、正しい・
信じられると思うとすべてを信じる。

また、「火事場の馬鹿力」の話に付随し、心理学
用語として、④プラセボ効果について、水晶玉とガ
ラス玉を使った被験対照結果に差のないことや、新
薬の臨床試験には必ず偽薬（プラセボ）が比較対象
として用いられることを伝えた。

表4中の①（対角線上にある4カ所）が、ラベル
張替えによる影響を受けたと考えられる学生数〔79
名/149名〕で約53%、②の4カ所が「（影響を受け
ずに）占いが当たった」学生数〔45名/149名〕で約
30%である。年ごとの割合は、2019年が①：53%・
②：29%、2020年が①：53%・②：32%であった。

これと同じ方法の「ラベル張り替え実験」を、大
村（日本大学教授）が1992年頃に大学生・短大生
279人を対象に実施したところ、結果は①が56%、
②が21%であった（高田 1992）。同様に筆者も、
2003～2012年にかけて高校生を対象に数回行った
が、結果の多くは①が60～70%、②が25%以下で
あったことなどから比べると、今回は「占いが当
たった学生」の割合が多く、事後の感想でも、「ラ
ベリング効果に引っ掛かってしまった」というもの
と同時に、「自分はA型なのに最初は特性がO型で
とても驚いたが、入れ替えていると聞き、やっぱり
占いと合っていたので安心した」などの意見が何人
にも見られ、占いが当たっているという、講義者の
思惑と逆の定着となった学生も少なからずいた。な
お、血液型性格診断については、2004年（平成16
年）にBPO（放送倫理・番組向上機構）が、「非科
学的であり差別につながりかねない」として、以降
の放送自粛を求めている。

V. 科学リテラシー向上のための講義と考察（2） 再アンケート結果（2020年）を踏まえて

1. 講義時配付資料（抜粋）

科学的なものの見方・考え方の基本として、以下
の内容をプリント配付し、口頭で補足説明を行っ

た。

○現代科学の知識の体系と矛盾する現象に出くわし
たら、いったん今の科学の体系を捨て、新たな不
思議現象も矛盾なく説明できるような、新しい
知識の体系を組み立て直せばよい。

例：「ニュートンの物理学」

⇒「アインシュタインの特殊相対性理論」

○科学は「事実の観察」からスタートする。その際、
人間の感覚器官がいかに頼りないか、人間がいかに
簡単に倒錯の世界に足を踏み入れやすいものな
のかを認識しておく必要がある。

○「科学で扱うことのできる命題」

= 「科学的命題（客観的命題）」

「科学で扱うことのできない命題」

= 「価値的命題（主観的命題）」

「科学的命題」の真偽の判定基準は事実と合致し
ているかどうかであり、「経験の絶対視」の危険
性を忘れてはならない。

○疑似科学検証の際の問題点

①再現性が難しい：個人的な体験に基づいている

②科学的な検証を試みることを好まない：被験者
が科学の土俵にのってこようとしない

○現代科学で説明できないことが超常現象ではな
い。⇒分からないことは調べればよい。

○科学のブラックボックス化

「HOW」だけを知っていればよく、「WHY」へ
の執着心が失われた。

○ある手品師兼大学教授の言葉

常識豊かな人ほどだまされやすい。したがっ
て、サルはだまされない。サルに手品をやって成
功したためしがない。人間は非常にだましやす
い。

2. パワーポイントを使つての講義内容（抜粋）

科学的なものの見方・考え方とともに、科学に関
する著書で多く読まれた本や超常現象として取り上
げられたものについて、映像等を用い、現在確かだ
と考えられていることについて説明した。

○「ある」ことの証明：

1つの該当するものを見つければよい

「ない」ことの証明：別名：悪魔の証明

例：宇多津町に、現在セアカゴケグモはいない。

例：数学界の超難題：フェルマーの最終定理

3以上の自然数 n について、 $x^n + y^n = z^n$ となる自然数の組 (x, y, z) は存在しない。

○認知心理学者

人間は見たいものを見る生き物。元々不思議なものを見る生き物。そして我々は、未確認、未知の領域を本能的に欲している。

○『利己的な遺伝子 —The Selfish Gene—』1976年 著者：リチャード・ドーキンス

要約：動物（生物）の体は遺伝子DNAの乗り物で、行動や形態などは、DNAの維持と複製〔個体維持と子孫維持〕を目的としている。

『サピエンス全史 —Sapiens: A Brief History of Humankind—』2016年 著者：ユヴァル・ノア・ハラリ

要約：サピエンス（我々人類）は、唯一想像力を獲得した。それにより、神仏、社会、国家、貨幣などを生み出し、社会や文化を構築・発展していった。

○映像等を用いての説明

- ・宇宙の成り立ちと、約137億年前に起こった事象
- ・太陽系と最も近い恒星までの距離は約4.2光年。したがって光の1/2万の速さ（ボイジャー2号の速度：約15km/s）で移動しても、到達するのに約8万年かかる。
- ・SETIプロジェクト（Search for Extra-Terrestrial Intelligence）：数十年前から現在も、人類が大型電波望遠鏡などを用いて、宇宙の知的文明を探索している事実。そして、もしUFOに知的生命体に乗っているのであれば、知的好奇心の観点から逃げたり隠れたりする理由がない。
- ・ジャパン・スケプティクス（Japan Skeptics）：超自然現象を科学的・批判的に究明する会。超常現象や疑似科学の検証を目的に活動。
- ・ジェームズ・ランディ（カナダ、奇術師・疑似科学批判家）の「100万ドル超能力チャレンジ」：20年間に300人超が挑戦したが成功者なし。
- ・ETV（NHK教育）の番組「幻解超常ファイル」：超常現象・謎・噂・ミステリーなどとして多くの人々に語り継がれているUFO、未確認生物、心霊などの事象とその具体的事例を取り上げ、これらを現在の科学や人文科学などを用いて検証して

いく番組の紹介。

3. 講義（配付資料等なし）

講義前アンケートの項目1・2の一部について、アンケート結果の表やグラフを見せながら、以下の補足説明を行った。

- 「火事場の馬鹿力」：猪飼道夫（東京大）が1961年に、心理的抑制から解放されると筋力が高まることを実験的に証明しており、以降も筑波大学教授などが学生を使って、同様の研究成果を発表している。
- 「ブラックホール」は、その存在が100年以上前から理論的に提唱され、近年様々な観測によりその存在が確かなものとなり、2019年4月には画像撮影にも成功している。
- 「気配」を感じるのは視覚以外の五感、例えば微妙な空気の動きの察知などによるものであり、また近年は電気的な動き（準静電界）の研究もなされている。

4. 再アンケート結果と考察

2020年、事前アンケート（★10/7：76名）から、上記の配付資料や90分間の講義（10/28）を経て、再アンケート（☆11/25:55名）を行った結果が、表5である。

- ・「ブラックホール」や「火事場の馬鹿力」については、その存在を認めるものが増加し、講義の成果が現れている。
- ・「UFOの存在」が減少した反面、「地球外生命体の存在」が増加していることから、宇宙の誕生やその大きさ、また知的生命体に関する説明により、UFOと地球外生物を切り離して考える学生が増えたと思われる。
- ・超能力等について、その再現性の乏しさについて説明を行い、「テレパシー」や「未解明のエネルギーを使える人」の存在についてはやや減少したが、「超能力」に関してはあまり変化が見られない。
- ・「血液型性格診断」肯定の割合が変化していない理由として、ラベル張替え実験によって、「占いは当たっておらず、これまで当たっていたと思うのは様々な心理によるものであった」と感じた学

表5 講義前後の変化 ①そう思う+②ややそう思う の合計ポイント (%)

項 目		★	☆	変化
1	霊は存在する	78	80	△ 2
2	幽霊は存在する	75	76	△ 1
3	体は死んでも魂は生き続ける	68	60	▼ 8
4	生まれ変わり（輪廻転生）はある	80	76	▼ 4
5	虫の知らせで身内の不幸を知った人がある	53	42	▼ 11
6	超能力は存在する	58	56	▼ 2
7	テレパシーは存在する	71	40	▼ 31
8	未解明のエネルギーを使える人がある	58	45	▼ 13
9	「気」は存在する	73	84	△ 11
10	火事場の馬鹿力はある	82	87	△ 5
11	U F Oは存在する	64	51	▼ 13
12	地球外生命体は存在する	78	87	△ 9
13	ブラックホールは存在する	83	95	△ 12
14	UMA（未確認生物：サイズはヒト以上）は存在する	58	66	△ 8
15	「血液型による性格診断」は当たっている	52	53	△ 1

2020年 香川短大生 ★76名：10/7 講義10/28 ☆55名：11/25

生と、「ラベルを入れ替えられてもやはり当たっていた。占いは当たる。」と感じた学生の両方がいたためだと考えられる。

- ・「霊」や「幽霊」については、ヒトの感情や思考のシステム、脳について解明されていることなどを全く講義しておらず、結果変化は見られなかった。

V. 講義後の学生の感想

- ・宇宙全体の恒星の数を聞いて、あらためてとんでもなく巨大なものだと認識させられた。そして、宇宙の起源での対称性の破れは面白いと思った。
- ・利己的な遺伝子の、私たちの体はDNAの乗り物というワードが、違う角度から見た考え方だと思った。宇宙や地球外生命体などにあまり興味はなかったが、講義に参加し話を聞いてすごく面白かった。
- ・血液型の話は、これまで信じてよいのかどうか疑問に思っていたが、心理学効果が働いていること

を知り、そこまで信じなくてよいことが分かった。

- ・「ある」ことの証明は簡単だが、「ない」ことについてはたくさんの証明をしなければならず、大変なことだと感じた。次回の講義も楽しみである。
- ・雌雄のマークの由来を知ろうとしなかった自分に驚いた。日常で当たり前に感じているものに対して、なぜそうなのかという疑問を抱けるようにしたい。また、宇宙や人体の神秘にすごく興味をそそられたので、これから自分でもいろいろと調べてみようと思う。
- ・小さい頃から超常現象やUFOのテレビを観て、本当かどうかモヤモヤしていたが、今回の講義ですっきりすることができた。
- ・私たちのアンケート結果の中に「目に見えているものは存在するか」というものがあったが、これは「あること」「ないこと」の証明につながっていると感じた。
- ・科学は事実の観察からスタートするとあったが、今回の講義を通して、いかに人間が素直でたまさ

れやすいかを実感した。人間は、感情や知識が優れているからこそ、情報に影響されやすくだまされやすいのでしょう。普段なかなか現代科学を知る機会がなかったので、とても面白かった。

- ・人の感覚は、とても頼りないものと知り、ますます自分の中での線引きが必要だと思った。科学というものは、倫理や哲学より人の感覚に近いものではないかと感じた。
- ・義務教育が終わっても科学的な知識のアップデートは大事だと思った。理系科目は苦手だからといって、学ぶことをおろそかにしたくないと改めて思った。

VI. まとめ

近年、集積されたビッグデータの活用を含め、統計学やプログラミングなどの重要性が増している。しかしながら、科学リテラシーとその教授の重要性については、20年以上前から、PISAやTIMSSの調査結果を踏まえた国立教育政策研究所の報告書や文部科学省の会議等で指摘されている^{13) 14)}にも関わらず具体的な進展は見られていない。そして、最も基本的で大切であると考えられる科学的なものの見方の育成が充分とは言えないまま、初等・中等・高等教育すべてで、AI・数理・データサイエンス教育に関するカリキュラム構築が始まり、教育内容の充実が求められるようになった^{15) 16)}。

そのようななか、学生たちは情報の大海にスマートフォンという羅針盤にも誤った海図にもなりえる機器を携えて漕ぎ出さなければならない。科学を装った新しい言葉や現象についても、メディアの自浄作用にはあまり期待できず、何が正しいのか、何がどこまで説明されているのかを、自身で確かめる必要がある。

今回の講義はわずか90分間であり、それによる変化は微々たるものであった。しかし、学生たちの感想に見られるように、特に文科系学生と言われる者たちも、科学的な講義や説明を欲していることが分かる。今後も内容や教授方法を工夫し、物事を正しく見る眼や方法とともに、正しく見ようとする心の醸成を図っていきたいと考える。

引用文献及び参考文献

- 1) 中島定彦・佐藤達哉・渡邊芳之 (1993)「超自然現象 信奉尺度の作成」Journal of JAPAN SKEPTICS Vol.2
- 2) 安齋育郎 (1996)「人はなぜ騙されるのか～非科学を科学する～」朝日新聞出版
- 3) 安齋育郎 (2002)「霊はあるか—科学の視点から—」講談社ブルーバックス
- 4) 安齋育郎 (2005)「だます心・だまされる心」岩波新書
- 5) 池内了 (2008)「疑似科学入門」岩波新書
- 6) 石川幹人 (2014)「超常現象を本気で科学する」新潮社
- 7) 左巻健男:編 (2019・4) RikaTan [理科の探求]「ニセ科学を斬る」SAMA企画
- 8) 能見正比古 (1971)「血液型でわかる相性」青春出版社
- 9) 松井豊 (1991)「血液型による性格の相違に関する統計的検討」立川短大紀要
- 10) 高田明和 (1992)「血液型で性格は決まらない」ニュートン4月号 教育社出版
- 11) 長島雅裕・古谷吉男・上蘭恒太郎・安部俊二・武藤浩二・小西祐馬 (2010・03)「疑似科学とのつきあいかた～教師を目指す皆さんへ～」長崎大学教育学部「疑似科学とのつきあいかた」研究会
- 12) 高島美鈴ら (2019・06)「血液型性格診断の科学的実体の調査」2019年度学問への扉「疑似科学を科学する」調査報告書集 大阪大学
- 13) 国際数学・理科教育動向調査〔TIMSS〕(2003) 国際教育到達度評価学会
- 14) PISAから見るできる国・頑張る国—未来志向の教育を目指す：日本— (2012) 経済協力開発機構編著 渡辺良 (国立教育政策研究所) 監訳
- 15) 第5期科学技術基本計画 (2015・02) 内閣府総合科学技術イノベーション会議
- 16) AI戦略等を踏まえたAI人材の育成について (2019・11) 文部科学省

資料1 能見正比古氏が挙げた各血液型の性格特性
(A型⇔O型・AB型⇔B型 入れ替え済み)

A型	O型
<ul style="list-style-type: none"> ・目的指向性が強い ・力関係を敏感に意識する ・欲望がストレート ・勝負師性がはげしい ・頭をおさえられるのをきらう ・ロマンティックな性格 ・判断，行動が現実的 ・直線的な考え方 ・仲間意識が強い ・スキンシップな愛を好む ・仲間以外には警戒心大 ・個性的な物事を好む ・自己主張が強く，自己表現がうまい ・言葉の使い方がうまい ・行動に原則を持つ ・感情が後に残らない ・社会を強く意識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲や相手に心を配る ・人間関係の平穏を好む ・心を開くのが遅い ・ルール，慣習を尊重する ・秩序を重視する ・行動や表現が抑制的 ・思考が型にはまりやすい ・白黒，善悪のけじめをつける ・将来に関して悲観的 ・過去を努めて楽観的にみる ・完全主義で，物事の完成を望む ・持続力がある ・現状維持。無為に弱い ・興味への集中力，持続力が弱い ・神経の傷の回復が遅い ・心の中で現状脱皮を願望している ・何かに役立つことに生き甲斐を感じる
AB型	B型
<ul style="list-style-type: none"> ・束縛をきらうマイペース型 ・行動が型にはまらない ・考え方が型にはまらない ・照れ症でひねた表現をする ・差別なく心を開放する ・周囲にとらわれない ・慣習，ルールを気にしない ・行動に移すのが早い ・判断は正確さを重視する ・実用的，具体的な思考 ・興味が多方面で集中力がある ・過去にややこだわる ・将来には楽観的 ・感情の振幅が大きい ・神経の傷は完全に回復する ・脱家庭的傾向がある ・興味，関心のあることに重点を置く 	<ul style="list-style-type: none"> ・合理性に富む考え方 ・批判，分析を好む ・社会参加と社会への貢献を好む ・人間関係の調整がたくみ ・社会で人との調和を望む ・重要問題で他人の意見を求める ・社会では感情を抑制する ・仲間内では激情家 ・対人関係には距離をおく ・人の裏表や偽善をにくむ ・集中力が高く持続性は少ない ・考え方や解釈が多角的 ・メルヘンの空想趣味がある ・物事に対して趣味的で没頭しない ・経済能力，生活力がある。計算高い ・生活には最小限の安定を望む ・闘争を避ける

出典：高田明和（1992）「血液型で性格は決まらない」ニュートン4月号 教育社出版

